

**2016 年度鳥取大学大学院連合農学研究科  
生物資源・環境科学留学生特別プログラム(博士後期課程)  
編入学生(私費留学生) 募集要項**

鳥取大学大学院連合農学研究科は、鳥取大学大学院農学研究科、島根大学大学院生物資源科学研究科及び山口大学大学院創成科学研究科農学系専攻の修士・博士前期課程の講座と附属施設を母体として編成され、各構成大学の研究科と密接な連携協力のもとに運営されている。

生物資源・環境科学留学生特別プログラムは、これらの修士課程から継続して生物資源・環境科学に関する研究を行う外国人留学生を受け入れるプログラムである。2016 年度には特例的に、博士後期課程から受け入れる編入学生(私費留学生)を下記により募集する。

### 1. 専攻分野及び募集人員

- (1) 専攻分野：生物資源・環境科学及び関連諸科学の研究分野で、鳥取大学大学院連合農学研究科の主旨指導有資格教員に研究指導が受けられるものであれば、何れの分野であってもよい。
- (2) 募集人員：私費外国人留学生 若干名

### 2. 出願資格及び条件

- (1) 国籍：日本政府が承認する国で、新たに海外から留学する者及び日本国内に在住している者
- (2) 年齢：年齢は問わない
- (3) 学歴：修士の学位若しくは修士の学位に相当する資格を取得した者又は2016年9月末までに取得見込みの者
- (4) 健康：心身ともに大学院における学業に支障がないこと
- (5) 語学力：研究指導等は主として英語で行うことから、英語能力が十分であること
- (6) 渡日時期：2016年10月1日から10月7日までに必ず渡日可能な者
- (7) その他：現役軍人又は軍属の資格のまま出願することはできない

### 3. 応募手続

応募者は、下記の書類を2016年5月2日(月)までに、希望主旨指導教員を通して鳥取大学農学部連大学務係に提出すること。

- (1) 2016年度鳥取大学大学院連合農学研究科生物資源・環境科学留学生特別プログラム入学申請書  
(私費外国人留学生用)(様式第1号) 正本1部
- (2) 推薦書(入学志願者本人をよく知っている者が作成した推薦書)(様式第2号) 正本1部
- (3) 志願理由書(1,200語程度で記載し、所定の表紙(様式第3号)を付けること) 正本1部
- (4) 出身大学院の修了証明書及び学位記又は修了見込証明書 正本1部
- (5) 大学院の成績証明書(出身大学の発行したもの。英語以外のものは英文訳を添付) 正本1部
- (6) 修士論文概要。ただし、修士論文がない場合はこれに替わるもの。修了見込の者は研究経過概要  
(1,200語程度で記載し、所定の表紙(様式第4号)を付けること) 正本1部
- (7) 本国の戸籍謄本又は市民権等の証明書 写し1部
- (8) TOEFL、TOEIC又はIELTS等の英語能力を客観的に示す成績証明書+ 写し1部
- (9) 入学申請書の項目10に記載した著書、論文等のコピー
- (10) 写真(最近6か月以内に撮影したもので、上半身、正面、脱帽、裏面に氏名を記入し入学申請書の所定の場所に添付のこと。) 1枚(5cm×4cm)
- (11) 入学検定料 30,000円(現金)(構成大学の大学院修士課程を修了見込での出願者は不要)

#### 【注意事項】

- ① 申請書類は、すべて英語により出来るだけタイプを用いて作成すること。申請書類は連合農学研究科HP (<http://rendai.muses.tottori-u.ac.jp/japanese/recruit/index.html>) よりダウンロードが可能である。
- ② 上記申請書がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、付属書類が完全に揃っていない場合、また提出期限が過ぎたものについては受理しない。
- ③ 提出書類の返却はしない。
- ④ 希望する主旨導教員名を入学申請書に記入すること。入学申請書に主旨導教員名の記入がない場合、出願書類は受理されません。志願者は主旨導教員予定者と密接な連絡をとり、出願書類を作成するとともにインターネットインタビューを受けること。

#### 4. 入学時に要する経費

- (1) 入学料：282,000円（予定額）（構成大学の大学院修士課程を修了後、引き続き進学する者は不要）
- (2) 授業料：（後期分）267,900円（予定額） [年額は535,800円（予定額）]  
※入学料、授業料は予定額。入学時及び在学中に改訂があった場合は、改訂後の入学料、授業料を徴収する。
- (3) 学生教育研究災害傷害保険制度：この保険は学生の正課中・通学中・課外活動中及び学校施設内における不慮の災害事故によって、身体に傷害を被った場合の補償制度であり、全員加入を推奨している。保険料は、3年間分で2,600円である。

#### 5. 選考

- (1) 鳥取大学大学院連合農学研究科は、提出された書類（研究業績、英語成績）と主旨導教員予定者より提出された応募者への面談等の評価報告書などにより審査する
- (2) 合格通知は6月中旬に本人に通知する

#### 6. 研究指導

- (1) 研究指導等は主として英語で行う
- (2) 3年間で博士（農学）の学位を取得すること
- (3) 在籍身分は正規の大学院生である。学生は構成大学の教員（主旨導教員1人及び副指導教員2人）により研究指導を受ける。学生は、主旨導教員が専任として在籍する構成大学に配置され研究指導を受けるが、他の構成大学の施設・設備も利用することができる。

#### 7. 注意事項

- (1) 提出書類等の記載事項に虚偽の記入がある場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがある。
- (2) 留学生は渡日に先立ち、日本の風土、習慣、気候、大学の状況についてあらかじめ研究しておくことが望ましい。また、日常生活は日本語での生活になることについて十分理解しておくこと。

#### 【問い合わせ先】

〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学大学院連合農学研究科(農学部連大学務係)  
TEL : 0857-31-5446 FAX : 0857-31-5683 E-mail : ag-rengaku@adm.tottori-u.ac.jp

#### 【構成大学の住所】

鳥取大学農学部	〒680-8553	鳥取市湖山町南4-101	TEL : 0857-31-5346	FAX : 0857-31-5347
島根大学生物資源科学部	〒690-8504	松江市西川津町1060	TEL : 0852-32-6492	FAX : 0852-32-6499
山口大学農学部	〒753-8515	山口市吉田1677-1	TEL : 083-933-5800	FAX : 083-933-5820

# 主指導教員となり得る者の教育研究分野一覧

※：国際農林水産業研究センターとの連携

## 1. 生物生産科学専攻

### (1) 農業生産学連合講座

浅尾 俊樹 (島根)	園芸生産学	野菜・花卉の生産技術に関する研究
板村 裕之 (島根)	果実成熟生理学	果実の成熟に伴う生理的变化に関する研究
小葉田 亨 (島根)	作物生産生態学	作物の生産改善のための生理・生態的研究
小林 伸雄 (島根)	園芸育種学	植物遺伝資源の評価と育種利用
※許 東河 (鳥取)	植物遺伝資源学	作物の環境ストレス耐性に関する遺伝的研究
高橋 肇 (山口)	作物学	作物の省力・低投入型栽培体系の確立に関する研究
田村 文男 (鳥取)	園芸学	ニホンナシの自発休眠制御に関する研究
中務 明 (島根)	園芸分子育種学	園芸作物における有用形質関連遺伝子の解析と育種利用
※福田 善通 (鳥取)	作物遺伝育種学	イネ農業形質の多様性、分化、遺伝様式に関する遺伝育種学研究
松本 真悟 (島根)	土壌・作物栄養学	土壌肥沃度に対応した作物の養分獲得機構の解明
松本 敏一 (鳥取)	果樹園芸学	果樹栽培と加工品に関する研究
山本 晴彦 (山口)	環境情報科学	光学的計測法による植物の生育診断

### (2) 森林資源学連合講座

伊藤 勝久 (島根)	森林政策学	森林・林業政策及び条件不利地域対策に関する実証的研究
長澤 良太 (鳥取)	景観生態学	中山間地域における自然、人文、社会環境の景観生態学的研究
日置 佳之 (鳥取)	生態系保全・復元計画学	生物多様性の保全と復元のための生態学的な計画と技術
藤本 高明 (鳥取)	木材理学	木材性質変動の解析および計測評価手法の開発

### (3) 経済・経営学連合講座

伊藤 康宏 (島根)	漁業史	日本漁業の近現代史研究
内田 和義 (島根)	農業史	日本における近代農学成立の研究
能美 誠 (鳥取)	地域産業計画学	地域農業計画・分析手法の開発および適用
古塚 秀夫 (鳥取)	農業会計学	農業会計原則と農産物生産費計算の確立
松田 敏信 (鳥取)	消費者行動学	計量経済学による消費者行動の研究、特に食料需要の実証分析
万 里 (鳥取)	流通情報解析学	農産物の流通経路と市場情報の計量経済分析

## 2. 生物環境科学専攻

### (1) 生産環境工学連合講座

猪迫 耕二 (鳥取)	水土環境保全学	水土環境の保全と再生ならびに持続可能な利用に関する研究
緒方 英彦 (鳥取)	水利施設工学	水利構造物の建設材料と構造性能の評価
喜多威知郎 (島根)	水緑利用学	合理的な水資源利用計画と管理および緑化による環境改善
宗村 広昭 (島根)	流域環境工学	湖沼流域の水環境保全と開発との調和に関する研究
武田 育郎 (島根)	水質水文学	集水域における面源汚濁の評価と制御
谷野 章 (島根)	生物環境電気工学	生物環境関連技術への電気工学の適用

### (2) 環境科学連合講座

會見 忠則 (鳥取)	微生物生産科学	微生物による食料及び有用物質生産の生化学・分子生物学
荒西 太士 (島根)	遺伝生態学	水域生物資源の進化、生態および保全に関する分子遺伝学研究
石原 亨 (鳥取)	天然物化学	植物・微生物が合成する代謝産物の機能、生理活性、生合成に関する研究
一柳 剛 (鳥取)	有機化学	合成化学的アプローチによる生物活性化合物の機能解明
井藤 和人 (島根)	土壤微生物学	微生物と植物間の相互作用
伊藤 真一 (山口)	植物病理学	植物病原体ゲノムの構造と機能
上野 誠 (島根)	植物病理学	植物-病原菌の相互作用における抵抗性発現に関する研究
木原 淳一 (島根)	植物病理学	植物病原糸状菌の光環境応答
児玉基一郎 (鳥取)	植物病理学	植物-微生物相互作用と植物耐病性の分子機構
佐藤 利夫 (島根)	環境衛生工学	排水の高度処理や環境水の浄化・保全のための新技術や機能材料の開発
霜村 典宏 (鳥取)	菌類育種栽培学	きのこ類遺伝資源の育種・栽培に関する研究
竹松 葉子 (山口)	昆虫生態学	シロアリの多様性と生態に関する研究
中桐 昭 (鳥取)	菌類多様性学	水生環境に生息する菌類の分類・生態・適応進化
前川二太郎 (鳥取)	菌蕈分類生態学	きのこ類の種多様性と生態的機能に関する研究
松本 晃幸 (鳥取)	菌類遺伝資源学	菌類遺伝資源が持つ有用遺伝子の単離・解析とその活用
宮永 龍一 (島根)	昆虫生態学	野生ハナバチ類の生態と管理に関する研究

### 3. 生物資源科学専攻

#### (1) 生物機能科学連合講座

赤間 一仁 (島根)	植物分子生物学	植物の tRNA の発現制御機構と $\gamma$ -アミノ酪酸の生理機能の解明
阿座上弘行 (山口)	分子微生物学	バクテリアの宿主表面への定着の分子メカニズム
東 政明 (鳥取)	分子昆虫学	昆虫細胞の特異的機構の解明とその有効利用
有馬 二郎 (鳥取)	生命機能化学	微生物・酵素の新奇機能探索とメカニズムの解明、及びその利用
石川 孝博 (島根)	植物分子生理学	光合成生物における抗酸化物質合成と活性酸素代謝機構
尾添 嘉久 (島根)	化学生物学	神経伝達物質受容体とイオンチャネルの生体分子シグナリング機構
川向 誠 (島根)	遺伝子工学	真核生物情報伝達系と細胞周期の制御, コエンザイムQの生合成
※小杉 昭彦 (鳥取)	応用微生物学	微生物機能を用いたバイオマス資源利用技術の開発
澤 嘉弘 (島根)	酵素科学	アミノ酸代謝関連酵素の構造と機能
中川 強 (島根)	植物分子遺伝学	植物の発達メカニズムの解明と植物遺伝子解析技術の開発
西川 彰男 (島根)	動物発生生物学	両生類を用いた細胞増殖, 分化, 細胞死, 形態形成に関する研究
松崎 貴 (島根)	発生生物学	皮膚および付属器の発生ならびに再生機構
真野 純一 (山口)	植物生産生理学	植物の環境ストレス耐性機構の解明と応用

#### (2) 資源利用化学連合講座

河野 強 (鳥取)	生物有機化学	環境応答による休眠・代謝・寿命の制御機構
山本 達之 (島根)	生命分子分光学	分子分光学の生命科学や医療への応用
横田 一成 (島根)	細胞生命化学	食品・医薬品関連物質と生体との相互作用に関する分子細胞生物学的研究
渡辺 文雄 (鳥取)	食品科学	食品に含まれるビタミンB12関連化合物の化学的性質と栄養評価に関する研究

### 4. 国際乾燥地科学専攻

#### (1) 国際乾燥地科学連合講座

明石 欣也 (鳥取)	分子細胞生物学	耐乾性植物のストレス分子応答および環境耐性植物の分子育種
一戸 俊義 (島根)	家畜飼養学	反すう家畜の栄養と生産システムの評価
荊木 康臣 (山口)	生物環境調節工学	環境制御型植物生産システムに関する研究
木村 玲二 (鳥取)	境界層気象学	乾燥地における熱収支・水収支の解明に関する研究
辻本 壽 (鳥取)	分子育種学	遺伝子および染色体工学的手法による乾燥耐性作物系統の育種
恒川 篤史 (鳥取)	保全情報学	乾燥地における植物生産および生態系変化のモニタリングとモデリング
藤巻 晴行 (鳥取)	土壌保全学	乾燥地における塩類集積および土壌浸食の防止と修復技術の開発
増永 二之 (島根)	土壌圏生態工学	土壌の環境維持・修復機能および植物生産機能の制御と利用
安田 裕 (鳥取)	乾地環境システム工学	乾燥地における水圏環境システムの定量的評価
山中 典和 (鳥取)	乾地緑化学	乾燥地における樹木の生態学的研究
山本 定博 (鳥取)	環境土壌学	乾燥地における土壌環境の保全と農耕地の持続的利用に関する研究